

# JIP 報告書（香港）

研修生 : 金田 英里（言語教育研究科 M2）

研修先 : 香港城市大学専上学院

期間 : 2014年2月22日～2014年3月14日（3週間）

実習時間 : 400分（50分×8コマ）

費用 : 約6万円

（食費、香港での交通費、お土産代、観光にかかった費用等）

※ 航空券、宿泊費、関空までの交通費、海外旅行保険（携行品は除く。）は国際交流基金から助成金が支給された。

## 研修先について

機関名 : 香港城市大学専上学院（九龍塘キャンパス、九龍湾キャンパス）

日本語教師数 : 8名

学習者数 : 288名（1クラス20名程度）

クラス数 : 13クラス

## 研修について

実習クラス : Written communication in Japanese II（1年生）

Written communication in Japanese IV（2年生）

Oral communication in Japanese（1年生）

Japanese for professional communication（2年生）

使用教材 : みんなの日本語（台湾版）初級 I、II、進階 I、II

（現地で借りられる。）

指定された実習コマ数、見学コマ数は研修開始後にも変更可能なので、スケジュールに無理があると思った場合、先生に相談すると良い。担当の先生によっては実習前に教案を提出しなければならない場合があるため、早めに先生方とコミュニケーションをとっておいたほうが良い。学生は全体的に見て積極的というわけではないが、皆実習生と交流したいと思っている。授業外での交流を持つことで、実習でも学生が協力的に参加してくれてスムーズな授業が行え

る。授業の進め方は先生によっても様々で、実習も担当の課は指定されるが内容や進め方は実習生に委ねられる。

授業見学・実習以外の活動として、文部科学省の奨学金に応募した学生の模擬面接に面接官として参加した。また、神戸の日本語学校の先生が来訪された際の食事会にも参加した。夏休みに日本各地へ行く3週間の夏期プログラムがあり、1年生の数名が神戸へ行くため、受け入れ校の先生と行われた交流会である。

## 生活について

研修中は地下鉄油麻地駅から徒歩2,3分のCASA HOTELに滞在した。夜中でも観光客などで賑わっている通りに面しているため、危険を感じることもなく、また非常に便利な立地である。飲食店も多く、一人でも気軽に入ることができる。大抵の店は持ち帰りも可能。ホテルの部屋は湿気が多く、またシャワーとトイレの仕切りがないことが少々不便だったが、それ以外は快適だった。

香港は物価が高い。食費、交通費など合わせて1日100ドル程度かかる。地下鉄を毎日利用するため、オクトパスカードを買っておくと便利である。大抵の公共交通機関やコンビニ、飲食店等でも使用できる。駅やコンビニでチャージ可能。

週末は自由に過ごせる。交通が便利で、一人でもどこへでも行くことができる。また学生に頼めば色々な所へ連れて行ってってくれる。

## その他

到着の日は学生が数名迎えに来てくれる（今年度は1年生の女の子が6名）。その学生たちと、学長、コーディネーターの高橋先生、ほかの先生方にお土産を用意しておくといい。研修期間中も学生が観光に連れて行ってくれたり、手伝ってくれたりするので、小さめのお土産も余分にあるといい。

香港の気温は滞在中20℃前後で、雨が多かった。夜は肌寒くなるが、長袖のTシャツの上にカーディガンやパーカーなどで間に合った。スーツは必要なかったが、学長との挨拶や実習などのときは、あまりカジュアルな服装でない方がいい。



高橋先生（左）、学長（右）と



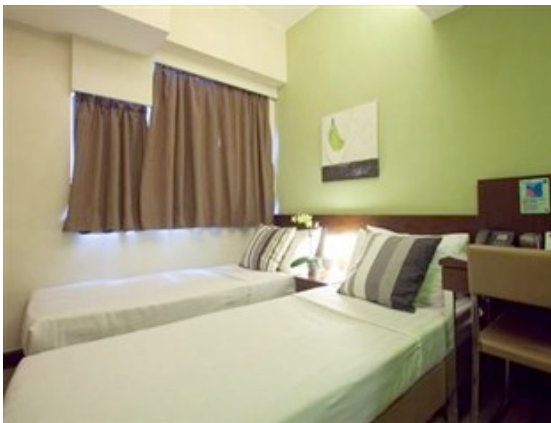
専任の先生方と



実習の様子



学食で学生と食事



ホテルの部屋（HP より）



ホテルの前の通り



キャンパス



オクトパスカード